

日本地衣学会 No.154

ニュースレター

Newsletter from the Japanese Society for Lichenology

目次

本会記事	593
日本地衣学会第17回観察会に参加して／原 光二郎	593
お知らせ	596
ニュースレター編集委員会からのお知らせ／坂東 誠	596

本会記事 *JSL Activities*

日本地衣学会第17回観察会に参加して

My Impression for the 17th JSL Field Meeting in Saga, September 2018 / by HARA Kojiro

>>>>>>> 原 光二郎：秋田県立大学

佐賀県で開催された第17回の観察会に参加するため、博多に前日入りし、集合場所のJR有田駅に向かいました。かれこれ10回以上も学会主催の観察会に参加しているものの、どちらかという物見遊山に徹しているためか、地衣類の分類・同定のスキルがなかなか向上しません。今回も、とんこつラーメンで腹ごしらえをし、移動中はJR鳥栖駅とサガン鳥栖のホームスタジアムの近さに驚き、浮ついた気分のまま有田入りしてしまいました。

有田は言わずと知れた有田焼の産地ですが、これまでに訪問する機会がなく、周辺の自然環境などについては全く知識がありませんでした。ただ、観察場所の黒髪山については、美白活性があることが分かった培養地衣菌の一つが黒髪山の地衣由来であることからすでに知っていました。

世話人の中嶋先生、講師の山本先生、参加者の皆さんと合流し、最初に向かったのは陶山神社という、鳥居や狛犬などが磁器製だったり、線路が参道を横切っていたりとユニークな神社でした(図1)。ここではアリノタイマツだけを観察しましたが、(磁器ではなく)時期が悪かったためか、大きな個体は観察できませんでした。

次に、黒髪山方面に移動し、黒髪神社(西光密寺)というところから黒髪山に登りはじめました。建物の柱のピンゴケの仲間を見つけた頃はまだ元気でしたが、登るにつれ次第に道が険しくなり、そのうちに絶壁や鎖場が出てくることとなり、少し弱音を吐いてしまいました。とにかく観察より安全第一でゆっくり登り、どうにかイワタケの観察ポイントに到着しました(図2)。さらに鎖場を通して、この断崖絶壁の上部に登



図1. 陶山神社の灯籠や鳥居.



図3. 頂上への鎖場.



図2. イワタケ観察の様子.

るとようやく頂上（標高518m）にたどり着き、ほぼ360度を見渡すことができました（図3、図4）。周囲の山々や登山ルートを書いた案内板はなんと有田焼でした。頂上では、景色を楽しんだり、ヒメイワタケなどの観察をしたり、ザクロゴケを発見したりして、すっかり元気を取り戻しました。

夕食は、芸能人や政治家がお忍びで行きそうな隠れ家的なお店でした。淡水魚に対しては少しだけ先入観があったのですが、初めて食べた鯉は本当に美味しく、

おそらく水が良いのではないかと思いました。その後、宿泊地のゲストハウスに移動し、二次会で地衣談議に花を咲かせました。

翌日は、竜門峡キャンプ場に移動し、そこから前日の黒髪山に続く竜門峡の自然歩道を進みました。案内板には、大蛇退治伝説とともに「至る所に巨石や奇石がそびえ岩窟もあり特有な植物が多く生息する」（原文ママ）との記述があり、珍しい地衣類が見つかりそうな雰囲気でした。

溪流沿いの道はうっそうとしており、ときおり、台風の影響なのか折れたり倒れたりした大木や苔むした巨石の間を抜けながら進みました。このルートでは、アオキノリなどの藍藻タイプの葉状地衣やオオマルゴケなどの固着地衣を主に観察しました（図5、図6）。

さらに進むと川底が白っぽくなりましたが、案内役の松尾さんによると、これが陶石だとのことでした。少しひらけた辺りで引き返し、駐車場で昼食後、今度は日当たりの良いキャンプ場で観察しました。

その後、有田ダムに移動し、北岸の展望台や東側の



図4. 黒髪山（天童岩）の頂上



図5. ハリアナゴケ属地衣の一種（メゴケ *Myriotrema microporum* とと思われる）。

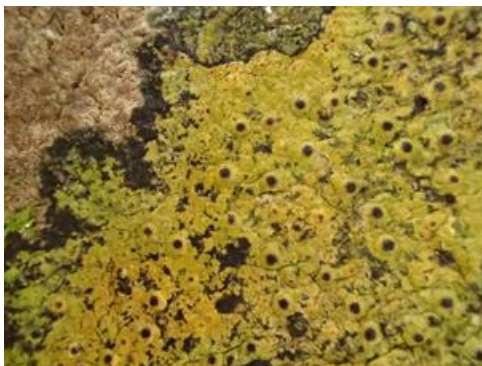


図6. オオマルゴケ *Porina internigrans*.

道沿いで観察しました。特に東側では、秋田では見られないトゲシバリの群生や石碑の上面を覆うヤマトキゴケなどを観察できました。また、ダム湖に突き出している岩にも地衣の着生による黄緑色のゾーンがみられ、この周辺は地衣類の生育にとって良い条件が揃っていると感じられました（図7）。ちなみに、この場所には大蛇伝説をモチーフにした有田焼の大きな陶板があったようなのですが、全くその存在に気がつきませんでした。

有田ダム南側の駐車場にて最後の観察を行った後、陶器店にも少し寄ることもできました。今思えば、地衣類の観察会だったとはいえ、有田焼や町の歴史について事前に調べておけば良かったと反省しています。

最後に、2日間の観察会を通して、山本先生には地衣類全般に関して、松尾さんには植物や地元の情報について教えていただきました。また、中嶋先生には現地での移動をはじめとして、お世話になりました。この場を借りて、皆様にお礼申し上げます。



図7. 有田ダム.

お知らせ *News and Announcements*

ニュースレター編集委員会からのお知らせ

From Editorial Board of the JSL Newsletter / by BANDO Makoto

>>>>>>> 坂東 誠：ニュースレター編集委員長

電子メールで投稿する場合における原稿の書き方についてのお知らせ

ニュースレター編集委員会では、会員の皆様からの原稿を随時募集しており、電子メールでの投稿をお願いしておりますが、「原稿は、どのような書き方で作成するのがよいのか」などの質問が時々あることから、以下に電子メールで投稿する場合における原稿の書き方についてお知らせします。

* * *

投稿する原稿は、できれば Microsoft の Word (図表は Excel) で作成し、電子メールに添付して、所定のアドレスに送信してください(ニュースレターNo.153

の記事「ニュースレター編集委員会からのお知らせ」も参照してください)。原稿の書き方については、特に詳細な規則を設けておらず、したがってニュースレター編集委員会では、どのような書き方の原稿であっても、その投稿を受け付けるようにしています。しかしながら、その後の工程(校閲、編集など)を円滑に進めるためにも、原稿を書く際には、できるだけ過去の類似記事を参考にし、句点および読点には、それぞれ「。」および「，」を使用しうえて、原稿中に題名、著者名、著者所属、本文などを書く場合や写真、図、表などを入れる場合には、以下のことに留意してくださるよう、お願いします。

- **題名** 適切な題名を英語表記も添えて書いてください（題名がない場合には、ニュースレター編集委員会より題名を提案いたします）。
- **著者名** 著者の姓名を英語表記も添えて書いてください。著者が複数の場合には、全員の著者名を同様に書いてください。
- **著者所属** 原則として、会務報告などでは、学会における役名または所属組織名などを、その他では著者の立場に応じた所属組織名などを書いてください。著者が複数の場合には、それぞれ著者所属を書いてください。
- **本文** 文語調か、あるいは口語調で書いてください（文語調、口語調のいずれで書くかは、原則として任意です）。
- **写真** 画像データとして本文の後に貼付するか、あるいは画像ファイルとして電子メールに添付してください。写真の題名は「図 X. 〇〇〇」（X には図番号、〇〇〇には題名が入る）とし、本文の後に貼付した写真の下に書くか、あるいは電子メールに添付する画像ファイルの名前にしてください。写真に説明文を付ける場合には、その説明文を本文の後に、写真の題名とともに書いてください。もし、写真のなかに人物が写っているものがあり、その人物が写真から特定可能な場合には、これに該当する全ての人物から「写真がニュースレターに掲載され、ウェブ上で公開される」ことへの承諾を得たうえで、こ

れに該当する全ての人物がニュースレターへの写真掲載やウェブ上での写真公開について承諾していることを投稿時の電子メールに書き添えてください。

- **図表** 図または表を入力したファイルを電子メールに添付してください。図中または表中で使用する字体は、原則としてゴシック体（斜体にしたものなどを含む）にしてください。図または表の題名は「図 X. 〇〇〇」または「表 Y. 〇〇〇」（X には図番号、Y には表番号、〇〇〇には題名が入る）とし、図の下または表の冒頭に書いてください。図または表に説明文を付ける場合には、その説明文を本文の後に、図または表の題名とともに書いてください。
- **引用文献** 本文、写真、図、表などで文献引用をした場合には、原則として日本地衣学会誌 *Lichenology* に準じた方法で、その引用文献を書き示してください。

* * *

なお、ニュースレター記事の体裁（字体、本文・写真・図・表・その他の配置など）は、ニュースレター編集委員会が調整しますので、これについては予めご了承ください。

以上、電子メールで投稿する場合における原稿の書き方についてお知らせしましたが、何か不明な点がありましたら、ニュースレター編集委員会にお問い合わせください。

◆原稿募集

本誌は、会員からの原稿を随時募集しています。地衣類にまつわるエピソード、想い出、あるいは地衣類に関する写真とタイトル、簡単な説明文だけでも受け付けます。電子メールにて次のアドレス宛に投稿御願います：
bandomakoto@aa6.mopera.ne.jp（坂東 誠）

●複写される方へ

本誌に掲載された著作物を複写したい方は、(社)日本複写権センターと包括複写許諾契約を締結されている企業の従業員以外、図書館も著作権者から複写権等の行使の委託を受けている次の団体からの許諾を受けてください。著作物の転載・翻訳のような複写以外の許諾は、直接本会へご連絡ください。

〒107-0052 東京都港区赤坂9-6-41 乃木坂ビル 学術著作権協会。

Tel: 03-3475-5618. Fax: 03-3475-5619. E-mail:

naka-atsu@muj.biglobe.ne.jp
アメリカ合衆国における複写については、次に連絡して
ください。

Copyright Clearance Center, Inc. 222 Rosewood
Drive, Danvers, MA 01923 USA.
Phone: (978) 750-8400. Fax: (978) 750-4744

●Notice about photocopying

In order to photocopy any work from this publication, you or
your organization must obtain permission from the following
organization which has been delegated for copyright for
clearance by the Japanese Society for Lichenology.

Except in the U.S.A.: Japan Academic Association for
Copyright Clearance (JAACC).
6-41 Akasaka 9-chome, Minato-ku, Tokyo 107-0052
Japan. Tel: 81-3-3475-5618. Fax: 81-3-3475-5619.

E-mail: naka-atsu@muj.biglobe.ne.jp
In the U.S.A.: Copyright Clearance Center, Inc. 222
Rosewood Drive, Danvers, MA 01923 USA. Phone:
(978) 750-8400. Fax: (978) 750-4744.

● *Newsletter from the Japanese Society for Lichenology*,
no. 154, pp. 593–598: eds. Bando M., Kawasaki E.,
published by *the Japanese Society for Lichenology*,
22 May 2019.

日本地衣学会ニュースレター154号

発行日：2019年5月22日

編集：坂東誠・河崎衣美

発行者・発行所：日本地衣学会

〒830-8555 福岡県久留米市小森野1-1-1

久留米工業高等専門学校 生物応用化学科内

©2019日本地衣学会 (© 2019 The Japanese Society for Lichenology)
本誌記事の著作権は日本地衣学会に属します。無断転載・無断複写等は固くお断りいたします。